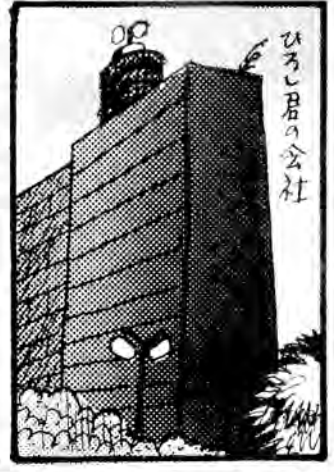


“結婚式って必要なの？”

# まんが 結婚と披露宴

入籍をすませ、晴れて夫婦になった2人。手続きを済ませただけでいいと思っていた2人でしたが、両親や親戚、知人などの「結婚式はいつ？」の言葉に、結婚式について考えることに…。







えー  
忙しいよ  
今度でも  
いいでしょ



何で？  
やっぱり  
せめて親戚には  
あいさつまわりに  
行かなくちゃ



何だって？  
親戚や近所に  
あいさつ  
まわりを  
しろだって  
まったく……



だっておばあちゃんも  
ゆうこさんに会いたいわって  
言ってるし  
それにこの前  
山口さんに  
会ったでしょ  
近所の人から  
ひろし君  
結婚したのって  
聞かれるし  
やっぱり隣近所にも  
あいさつくらい  
しとかなないと  
まったく  
面倒だな  
わかったよ  
考えとくよ



入籍だけで  
簡単にして  
考えてたのに  
結局面倒  
だよな



ふう……

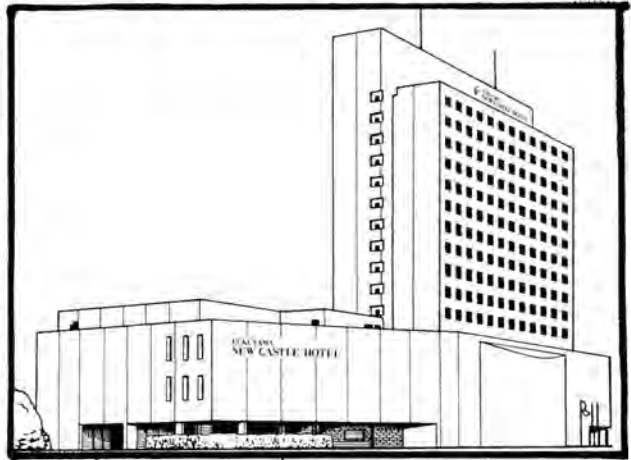


ホント？  
実は私も昨日  
ママから電話があつて  
おばあちゃんが私の花嫁姿を  
見たわって  
言ってきたんだって……









でもお金がないんで  
会費制にすれば  
私達の負担も  
少ないだろうし  
来る人にも  
負担をかけなくて  
すむかなって……

会を開く事の大切さに  
よく気が付きましたね。  
そもそもお二人が  
こういう会を開きたい、と  
思ったのは、お世話に  
なっている人達に  
これからもよろしく、という  
場を持ちたい、という  
事ですよ

はい、  
やはり結婚すると  
いろんなつきあいが  
出てくる事に  
気がきました

会費でいくら持ってきて、と提示することは  
おれ達をこれくらいでお祝いしてくれよ、  
と言っているようなものですよね

日本には「相互扶助の精神」という  
すばらしい文化があります  
ご両家のお招きしたい、という  
気持ちに応えて、  
せめて自分達の  
分は、と

ご祝儀を  
包んでくださる  
だからご祝儀にかかる分  
まるまるご両家が負担する  
という訳ではないのです

### ご祝儀の相場

ご 親 戚 50,000~100,000円  
上 司 30,000円~40,000円  
友人・同僚 30,000円

それに、たとえ  
ご祝儀を三万円位  
包んだとしても  
これからのつきあいで  
得るものの大きさに  
比べれば決して  
高いものだとは  
思いませんが……

でも普通の  
生活費から  
そんなに包むのは  
けっこうな負担じゃ  
ないんですか

その額だけを  
みればそうかも  
しれませんが、  
結婚式の  
およばれ  
なんて  
普通3年で  
3回くらいですよ  
ま、多い人で  
4~5回ですか

まあ……  
そうですね





それに意外と会費制の  
方が、ご両家にかかる  
負担や親戚に対する  
失礼も多いですよ

えっ!  
どうしてですか?

こちら辺では  
あまり会費制と  
いうのが一般的では  
ないんですよ。  
と言うのは  
ご親戚の結婚式に  
今までいくら  
包みました?

そうね、  
夫婦でやっぱり  
5〜10万  
かしら

そうですね  
ね、ご親戚で  
あればその位は  
お包みになるでしょう  
会費を1万にしたとしても  
きつとはなむけという形で  
そのくらいは持って  
くるんじゃないですか

そうよね、  
ほら、従兄のかずくんの  
時も会費制  
だったけど  
まさか  
それだけって  
訳にも  
いかなかった  
しね

「5万も包んで  
これだけ?」って  
お前怒って  
たよな

1万円の内容かと  
思うとそれこそ  
損した  
気持ち  
になる  
のよね

あいてにも余計な  
気持ちの負担をかけ  
自分達も意外と  
ご祝儀制より持ち出しが  
多かったりで、あまり  
良い事は  
ない  
ですよ

そうだ、  
やっぱり  
普通が一番!

でもやっぱり  
全体で何百万って  
かかるん  
ですよ

ちよっと  
私達には……

かかった費用だけを見ればそう思うかも知れませんが、ご祝儀として包んでもらった分と

差し引くと  
ご両家の負担は  
それ程大きなものではないですよ

そーですか…

今は平均  
どのくらいのもの  
を用意  
するんだろう

そうですね  
包んでくださるのを  
平均して1人あたり  
2万5千円にすると…  
お料理が16000円位、  
飲み物が2000円位、  
引出物と引菓子で  
6000円位ですが……

じゃ、ちょっと  
料理とか下げたら  
その分で旅行に  
行けるかも

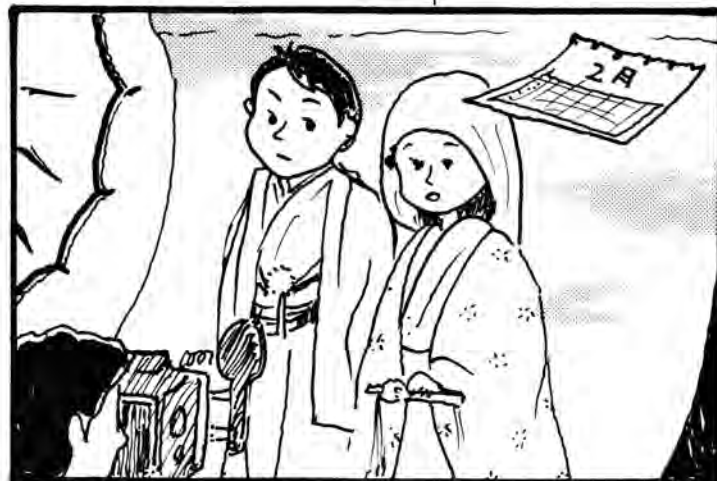
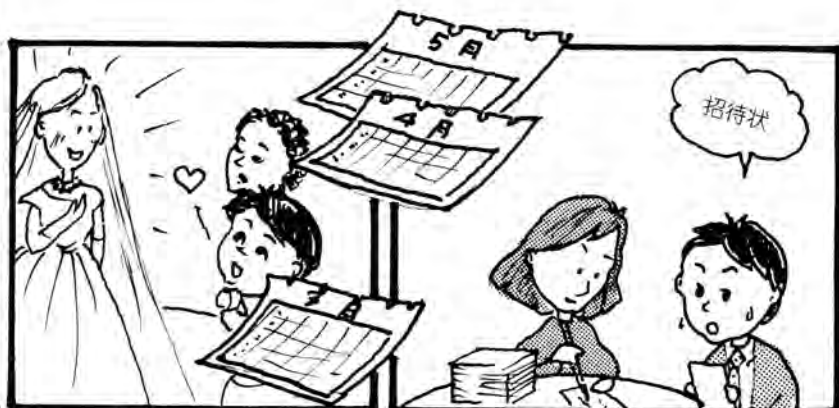
やはり頂いた分位は  
お返しする気持ちで  
それ以上の分は  
ご両家のお気持ち  
で……

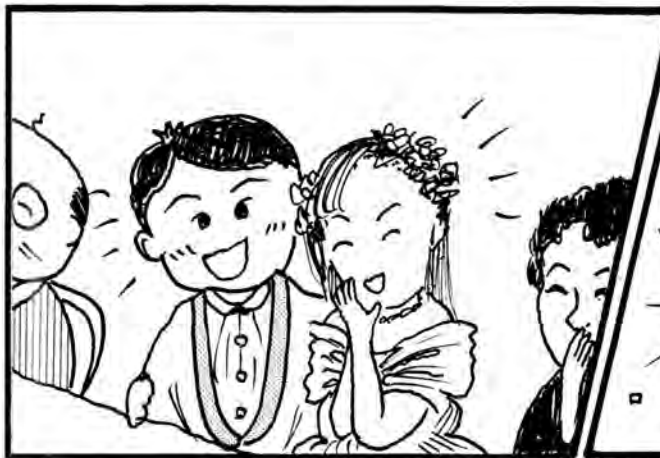
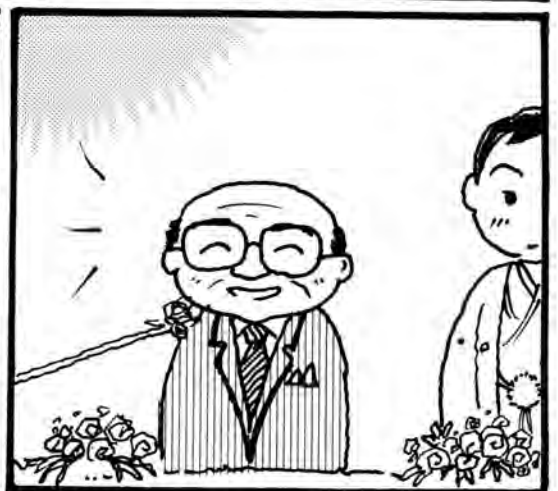
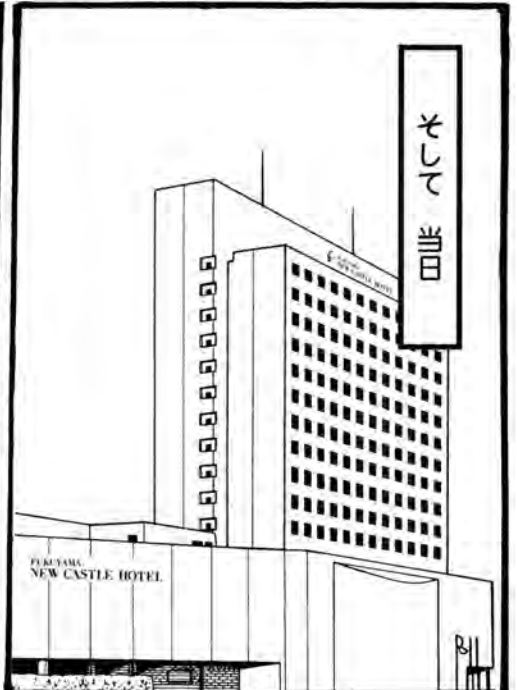
旅行や新生活の  
費用と、披露宴の  
費用は、  
お金の出所が  
ちがうん  
ですよ

そんな  
失礼なこと  
できるわけ  
ないでしょ

そんな  
事で  
もうけて  
どつするん  
だ！

ふんふん…









「披露宴はなぜするの？」を考える

人付き合い  
ここが大切!!

# 10の付き合い

「披露宴ってなぜするんだろう？」そんな素朴な疑問を持ったことはありませんか。結婚すればふたりの新しい人生が始まり、色々つながりができてきます。ふたりのこれからのために、「披露宴を挙げる」を考えてみましょう。



## 披露宴の重要性を考える

披露宴の本来の意味とは？

披露宴の本来の意味を知っていますか？お二人が新しいスタートをすめるために、今までお世話になった人、またこれからお世話になる人に直接お互いを紹介し「披露」すること、それが披露宴の意味。「おかげさまで新しい家庭を持つことになりました。皆さんとこれまで以上のお付き合いをさせていただきます」という気持ちが入められている大切なお披露目の儀式です。

披露宴本来の意味を考えると、できるだけたくさんの人たちを呼んで「おかげさまで」という気持ちで披露するのが趣旨にあった考え方。

そついう意味からすると、最近の結婚式は楽しければよい、カッコよければよいと、本来の日本人に大切な「心」を忘れていくようにも思えます。

現在も続く、  
人づきあいがすべての社会

そもそも、披露宴という形式ができてきた背景には、地域の冠婚葬祭という「10の付き合い」があります。冠、婚、葬、それから火事、建築、旅行、出産、水害、病気、年忌というのが、いわゆる10のつ



き合い。このうち「火事」は近隣に延焼を及ぼすということで、また「葬式」は死んだら仏になるということから、誰もがつき合わなければいけないものとして位置づけられています。しかし大切なのは残りの8つで、8つのうちひとつでも義理を欠くと、次からは村中から除け者にされてしまうといった「村八分」という厳しい掟が地域によってはありました。「葬儀」

「火事」意外の付き合いが閉ざされ孤立させられるという事は、現代社会において想像するよりはるかに



厳しいことでした。付き合いとは、社会生活においてすべてと言ってもいいほど重要なことであり、その中でも「婚」＝「結婚式」は新しい戸籍を持って名実ともに親から独立するという重要なもの。その意味を理解せず、入籍だけで済ます傾向にある現在、日本の由緒ある伝統が失われつつあるのではないでし



# 披露宴の中にある、 「お招きする心」「祝う心」 「もてなす心」

披露宴はもとも両家のお祝い事なので、費用の一切を負担してお披露目に臨むのが建て前ですが、「10のつき合い」というしきたりの中で生まれた考え方の基本に、「相互扶助」があります。これは、お互いがお互いに助け合うということだ。「お祝い事でも臨時の出費がかさむのは気の毒だから、両家だけに負担をかけないようにしよう」という「心」が生きています。ですから、そこに集まる人たちは「祝う心」をのし袋に託し、お祝いを包んでくるわけです。特に地方の町に住んでいる人たちには、たどっていけば町全体が知り合いのようなもの。人と

人とのつき合いを何より大切にす人情が根づいています。だから、心のこもったつき合いを大切にしなければならぬのです。仮に会費制が出席者に少しでも負担をかけまいとするやさしい気持ちから生まれたものだとすると、最初から出席者にお金を出してくれと手を出しているような行為は、なかなか馴染めぬのです。人とのつき合いで大切なのは、お金の多少ではなく、根底にある「心」です。「祝う心」を受けて、両家が「もてなす心」でお返しをする。それこそが昔から続く「日本の心」そのものではないでしょうか。



## 「三つの心」を考えて おもてなしする披露宴

披露宴をあたたく包んでくれるのが、「心のふれ合い」であるなら、詳しく知りたいのがご祝儀の目安です。お互いに負担を少なくし、失礼にならないように気配りをするからこそ、本来の心が息づくのです。

一概には言えませんが、大体の目安は友人が2〜3万円、先輩・恩師が3万円程度。そして親戚が3〜10万円。お世話になった度合いやつき合いの深さで金額は変わりますが、これを平均すると2万7,000円〜2万8,000円になります。こ

れを「祝う心」の目安と考えると、「もてなす心」は少なくとも同額のお返しをすることが望ましいと考えられます。

披露宴の楽しみの中のひとつであるお料理などで、精一杯のおもてなしをすることが、両家の気持ちを伝えるひとつの手段になるのかもしれない。もう一度婚儀の意味や背景を思い出しながら、「心」と「披露宴」のあり方について考えてみませんか。

